

平成26年度

全国学力・学習状況調査 北海道版結果報告書

～学校・家庭・地域が一体となった教育活動の充実に向けて～

北海道教育委員会
平成26年11月

【はじめに】

平成26年度全国学力・学習状況調査は、平成26年4月22日に実施され、8月25日に国から結果が公表されました。

北海道教育委員会でも、同日、「平成26年度 全国学力・学習状況調査 調査結果のポイントについて～北海道（公立）における調査結果～」として、全道の状況を公表しました。

本道の状況は、全国の平均正答率との差が、小・中学校8教科中、2教科で昨年度と同じ、6教科で差が縮まりそのうち中学校国語Aでは全国と同じになるなど、改善の傾向が見られ、教育委員会や学校、家庭、地域の取組が一定の成果として現れてきたものと受け止めています。

道教委では、平成23年6月に「平成26年度の全国調査までに全国平均以上」という目標を設定し、今年度、中学校国語Aでは目標を達成しました。他の教科は目標に近づいてきましたが、達成には至らなかったところです。

目標を達成するためには、正答数の少ない（全国の下位約25%に含まれる）児童生徒の割合をさらに改善するなど、なお一層の努力が必要と考えています。

本報告書は、今年度の全道の詳細な調査結果や管内別の結果のほか、本報告書の掲載に同意いただいた市町村の結果を掲載するなど、全道の教育関係者が一丸となって学力向上に向けた取組を進めることができるよう、工夫しています。

今後も、授業改善と生活習慣の確立を車の両輪と位置付け、正答数の少ない児童生徒の割合をさらに改善することに重点的に取り組みつつ、平成27年度には、全ての教科で全国平均以上となるよう、学力向上の取組を推進してまいります。

各市町村教育委員会や学校、教育関係者や保護者の方々はもとより、広く道民の皆様のご理解とご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成26年11月

北海道教育委員会

【目次】

I	結果のポイント	1
II	全道の状況	
1	平均正答率の推移	2
2	調査結果のレーダーチャート図	3
	・教科	
	・児童生徒質問紙調査	
	・学校質問紙調査	
3	正答数の状況（下位層の割合）	17
4	全道の学校の平均正答率のばらつき	19
5	A問題とB問題の相関	21
III	管内の状況	
1	管内の平均正答率のばらつき	23
2	各管内の状況	25
IV	市町村の状況	
1	市町村の規模別の平均正答率	81
2	市町村の平均正答率の度数分布	84
3	市町村の状況及び学力向上策	85
V	道教委の改善方策	259

【調査の概要】

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- 小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年の全児童
- 中学校第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年の全生徒

3 調査の内容

- ①教科に関する調査（国語、算数・数学）
 - ・主として「知識」に関する問題〔国語A、算数・数学A〕
 - ・主として「活用」に関する問題〔国語B、算数・数学B〕
- ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査

4 調査の方式

悉皆調査

5 調査期日

平成26年4月22日（火）

6 平成26年4月22日（火）に調査を実施した学校・児童生徒数

北海道（公立）

〔参考〕全国（公立）

	対象学校数(校)	実施学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)		対象学校数(校)	実施学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)
小学校	1,096	1,096(100.0%)	42,951	小学校	20,217	20,177(99.8%)	1,080,663
中学校	623	621(99.7%)	41,772	中学校	9,813	9,742(99.3%)	1,018,365
合計	1,719	1,717(99.9%)	84,723	合計	30,030	29,919(99.6%)	2,099,028

※ 小学校には特別支援学校小学部を、中学校には中等教育学校、特別支援学校中学部を含む ※ 札幌市を含む

※ 対象生徒の欠席により調査期日に実施できなかった学校（中2校）は、実施学校数(校)に含まれていない

【用語説明】

語句	説明
平均正答率	平均正答数を百分率で表示。 ○国語A、国語B、算数・数学A、算数・数学Bごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）。
中央値	集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値。 平均値とともに集団における代表値としてとらえられる。
標準偏差	集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値。 標準偏差が0とは、ばらつきがない（データの値がすべて同じ）ことを意味する。

【調査結果の解釈等に関する留意事項】

- 本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。
- 本調査の結果においては、平均正答数、平均正答率等の数値を示しているが、これらの数値のみで必ずしも調査結果のすべてを表すものではなく、中央値、標準偏差等の数値や分布の状況を表すグラフの形状など他の情報と合わせて総合的に結果を分析・評価する必要がある。また、個々の設問や領域等に注目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人ひとりの学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。
- 管内及び市町村の状況で掲載したグラフには、「その他」、「無解答」等の回答を割愛しているものもあり、必ずしも合計が100%にならない場合がある。